

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

福島県伊達市月館町より札幌へ避難中

福島県伊達市月館町より札幌へ避難

（宿舎の避難者自治組織「桜会」代表）

3 月 11 日のあの日以来、福島県の中通りは精神的な麻痺状態にある。

1 F-1 および 3 の爆発は衝撃を持って迎えられたが、逃げ遅れた人々は飯館や浪江町あこうぎの飛びぬけた高線量地と比較して、住まいの値が低いことかえって安堵してしまった。

以後、麻痺は続く。

長崎大学山下教授は、高線量域の飯館村で避難の必要はないと説いた。

長崎の地元紙や有名週刊誌ではその害を説いているが、福島県民の大多数の知識のよりどころは、地方紙とテレビである。また、一時期生命線となったラジオにおいても山下教授の言が繰り返し流されていた。

さらに、実は県外からの避難受け入れの話は、ネットを操るユーザー以外にはまったくといってよいほど届いていない現状がある。

福島県としての意図を感じるぐらい、それは徹底している。

被曝に対する恐れは子を持つ母により顕著に現れる。

避難を考える母親はそれ相当の数にのぼる。

先駆的避難者となった私にも、たくさんの相談や愚痴が寄せられている。

しかしながら、彼女たちは避難をためらっている。

経済的な不安はもちろんある。

だが、彼女たちを縛るのは子ども達の父親、あるいは実父母および議父母である。

福島はまだまだ閉鎖的な土地柄なのだ。

国や県が安全だと発表すれば、親方日の丸（言が下品であるが）的感性がどうしても働く。

嫁と子どもが逃げたとなれば外聞が悪い。

みな、普通と変わらずに畠仕事をしているのに、ウチの嫁が逃げたとなれば....。

放射能が怖いというほうが、変人なのだ。

同調圧力は、中央からは想像を絶する力を有している。

原発離婚が実際に起こりうる、そんな土地柄なのである。

チェルノブイリの実情を鑑みれば、最低でも福島県の中通りは避難の必要があると考える。

少なくとも選択的避難権の設定は必要だろう。

私が住んでいた福島県伊達市月館町においては、その周辺が計画的避難地域と避難勧奨地域に指定されてしまった。

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

その土地で、若干周辺地域よりも低線量だからと何の指定も受けずに暮らしている人たちがいる。市のメッシュ調査で私の家は毎時 1. 5□s/h だった。

計画的避難地域に隣接する地域では、より高線量が今でも続いている。

たくさんの人々は、国や県が指示をしてくれない限り逃げることはできない。

先祖伝来の土地を捨てる。それがどういうことか、今一度考えていただきたい。

命以外の、すべてを捨てることになる。

何の補償もなく、先行きも見えず、大切な友人や知人たちとの縁を断ち切って、それでも自主避難を選択することは、到底できることではない。

しかしながら、国の指示があれば、ある程度の補償があれば、より避難という選択肢は現実味を帯びてくる。

現在、北海道に限らず、自主避難をした人々は相応の心の傷を負っている。

非国民という扱い。卑怯者、裏切り者…実際にそんな言葉を投げつけられてココへ逃れている。

国や県によって正当なる避難者であると認められること。

そしてそれを裏付ける補償がえられること。

それがどれほど、彼女たちを救うことになるか、今一度検討していただきたい。

逃げること叶わず、その場で生きることを選択した人々へ、再考を促していただきたい。

本当に今の線領域で生活することは安全なのか？

更なる検討をお願いしたい。

棄民。

現世においてそんなことを考えなければいけない福島の現状をその目で見てほしい。

我々は福島県民としての誇りと、その矜持を胸に他地域へと旅立つ。

いつか帰る日を信じて。

そのためには皆様の力が必要である。

我々の鎖をどうか外してください。

以上

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

宮城県仙台市	自主避難 2 年OKといわれていた。雇用促進住宅のHPを確認して申し込んだ。申し込み後にどうなるかわからないといわれた。今後どうなるかの見通しを立ててもらわないと生活を設計できない。早くに回答してほしいのと、一度かけたハシゴを外すのような取りやめとか変更はやめてほしい。人の運命がかかってます。家賃の発生は構わない。だが、なぜ締め切ったのかなどの理由が知りたい。理由わからず突然切られたのに困惑している。他の福島以外の自主避難者も同意見。宮城と福島の差をつけるのはどうかと思う。自主避難する人の気持ちは一緒。
福島県田村市	福島県の避難者を返すような要請を各県にしていると聞いた。原発が終息していないのに、二重生活つらいのに、それ以上のことを強いられるのはつらい。戻って将来何かがあっても責任を取ってもらえない、取り返しがつかない。2年間生活できる援助は最低限続けてほしい。こども学舎さんのほうで母子家庭の方のみ保育士資格を取れる援助あった。母子避難（父と別れての生活）でも生活が大変なのは同じ。同じような援助を受けたい。就職支援をしてほしい。子供の予防接種、本州は日本脳炎うつの当たり前。自己負担。対応してほしい。幼稚園も普通に学費がかかる。いくらか戻る話はあるがはっきりしていない。二重生活で相当なお金がかかるのに、出していくお金は同じ。食費生活費は削りにくい。できれば援助、割引がほしい。免許証の更新が心配。違反があると戻らないと更新ができないのは困る。（戻る交通費、被ばくの心配）
福島県いわき市	札幌に住所を移動した。子供 4 歳。前は小学校まで医療費控除があったが、年齢制限が札幌は違った。福島に住んでいた時と同じような控除はいただけないのでしょうか。子どもの体調不良が一番心配。医療費の控除がすぐに受けられないのは（一時立替が負担が大きく、戻って清算なのでは現実問題無理）たくさんの方々がたくさんいる。待機児童の問題。家計が苦しいと母も働きに出たい。家族避難でもローンの支払いなどが残っていて避難費用も自己負担中なのでつらい。子供の被ばくが心配。北海道がんセンターで内部被ばく検査してると聞いたが予約いっぱいで受け付けしてもらえなかった。子供だけでなく全員受けたい。自分がどのくらい被ばくしているかを知る権利がある。無料で早急にしてほしい。
福島県郡山市	体調を崩している人が多い。（風邪、熱、咳、鼻水・・・）こちらで病院にかかることが増えている。子供の医療費は一度窓口で支払って後日支払と聞いていたが、どうなるのか。後で戻してもらうのは難しい。（帰ることができないので）一部医療機関の人「福島からの避難者は無料になるのでは」と聞いたがどうなのか。被ばくのことで、お母さんたちと話しているのは、今後の妊娠に不安を感じて子供を作ることに躊躇している人が多い。障害ができるのが怖い。原発のせいで家族のありようが変わってしまっている。家族設計ができない。何を信じていいのかわからない。将来のことを思うと不安でいっぱい。

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

福島県郡山市	<p>4歳の息子と二人で母子避難中。</p> <p>元夫と復縁の話を進めていた時に原発事故が起きた。</p> <p>こちらに避難するのに一緒に札幌に来たりしたのだが、経済的にも続かない、報道と現実のギャップ、情報量の格差から、危機意識の差ができてしまい、元夫は福島に戻ってしまい、復縁も破談になってしまった。</p> <p>夫は親や友達を捨てられないと言って、私たちは見捨てられてしまった。事実状の離婚。原発母子家庭になってしまった。</p> <p>子どもはお父さんとまた暮らせると思っていたので、毎日のように「パパは？パパは？」と聞かれ、そのたびに辛く苦しく、涙が止まらない。これから夫婦やり直して、子供のためにも仲良く頑張っていこうと楽しみにしていた矢先の出来事。本当に悔しくて許せない。</p> <p>非常に経済的なものが立ち行かず、先が見えないのが一番つらい。</p> <p>現在児童扶養手当の申請中。郡山市にいたとき、所得の申請をするのに地震後の日だったので申請できずにこちらに来ている。手続きの簡略化をしてほしい。</p> <p>厚別区役所と郡山市と話してもらいたら、郡山に戻って来て手続きするようにと言われた。避難して戻れない状況なのに。</p> <p>代わりの措置として、所得について詳しい代理人をたてるようい言われたが難しい状態。（親が代わりにが難しいそうです）6月から事実状離婚になってしまったので手続きがのびのびになっている。</p> <p>仕事がない、保育園に預けられない、仕送りも少ない、先が見えない不安。</p> <p>福島の現状はどうなっているのか。話の矛盾が多すぎる。行政の遅い対応を待っていたら助からないので自主避難してきたが、やはり保障をしてほしい。</p> <p>実家は酪農家。いわきの牛の出荷制限と保障対象にしてほしい。検査をしてもらっていない。なし崩し的に出荷させられているが不安でならない。</p> <p>保障があれば家族全員で避難できるのに、対応がなく支持がないせいで親世代は動こうとしない。国の指示がないと動かない世代が難しい。</p> <p>母子避難させた自治体を見習って同じようにしてほしい。</p> <p>子供の内部被ばく怖い。何も知らされていないので普通に生活してしまった。今後子供を産めるのか。子供の子供は大丈夫なのか。無料で今後の健康を管理することを国でしてほしい。何かあったら保障してほしい。</p> <p>こども学舎さんの保育資格取得の援助、一度学費を年額納めないといけない。</p> <p>何十万もの一時金を用意できない。身寄りがいないので借りれない。連帯保証人がいないと借りれない。北海道に住んでいる人が保障人じゃないと難しいと言われた。</p> <p>母子家庭で今後生きていくのに手に職をつけたいがハードルが高い。</p> <p>こどもの医療費の負担がつらい。清算をできない。避難してきている地域によって、扱いが違うために格差や差別が生まれている。ここに避難している同士で話していると、その格差が邪魔をして関係が気まずくなることが多い。差を無くしてほしい。</p>
--------	---

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

宮城県仙台市	<p>地元へ残っている人が、自分の意思でない人がたくさんいます。（逃げたくても逃げられない）</p> <p>経済的な理由、家庭内の意見の違い、仕事をやめられない、中には開き直っている人もいます。</p> <p>この先必ず体に異変があると思いますが、避難していたことを理由に知らぬ存ぜぬが無いよう保障をきちんとしてもらいたい。</p> <p>子供を育てる親である自分たちが先立った後は、守ってやれない心配もあります。</p>
福島市郡山市	<p>福島は本当に安全なのか、ということ。</p> <p>新築 3 か月の自宅は、庭の土は 6 マイクロシーベルト、カーポートの雨どいが 45 マイクロシーベルト、室内も 0、5~0、8。</p> <p>役所は各家庭に関してはお手上げ状態、小学校幼稚園の表土除去はしたものの、それはグランドだけで、土手や通学路、公園も手付かずのまま汚染されたまま。</p> <p>給食に地産地消、がんばれ福島を宣言した校長。いまも本気ですか？</p> <p>今年の春はガーデニング、夏は水遊びに花火、秋にはバーベキュー、冬には雪だるま、そり遊び、マイホームでの夢は、叶うことではなく、</p> <p>この古ぼけた宿舎で過ごさなくてはならない悔しさ。</p> <p>福島に残った夫、家族、友達と離れてしまった寂しさ。精神的、経済的負担。</p> <p>そしてなにより、娘二人を高い放射能の中、水汲みや買い出しに連れて行き、郡山で被曝させてしまったのではないかという不安、つらさ、</p> <p>この先、この二人の人生に付きまとう被曝という事実は誰にも消すことはできない。いまだ、咳きが続く下の娘。私はこの娘達が結婚し、子供を産み、また孫にまで、この被曝の後遺症を心配して生きていかなくてはならないのです。</p> <p>本当にいまも郡山は安全と言えるのですか。空気、水、土、野菜、お肉、魚、本当に全て安全ですか？私の大好きな縁豊な福島県に、本当に戻っていいのですか？あとからあとから出てくる驚愕の事実にもう騙されたくないのです。</p>
宮城県仙台市	<p>1) 2 年間家賃が無料ということで、仙台にうちを残し、2 つの釜戸を切り盛りしているのに、突然家賃徴収とは、国の対応に戸惑いがあります ということ</p> <p>2) 家族離散でも子供を守るために母子避難をし、治安の問題点、子供の新たな、かかりつけ病院の模索と、生活が 180 度変えてでも子供をまもりたい</p> <p>母親の気持ちをサポートしてほしい 母子避難による治安への不安は大きい。</p> <p>また、引越しによる健康不調も子供だけでなく母親も起こしている。</p> <p>ゆかりがある地でもなく、とにかく、子供を守るためだけに移動してきているので、ゼロ、いやマイナスからのスタートで保証もなく動いている。</p> <p>子供が育たなければ日本の未来はありません。未来を背負う子供を健やかに育てる義務が親にはありますから。</p> <p>必要な保証と、決めた保証の撤回をしないこと これは最低限、母子が生きていく為に必要なことです。</p>

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

群馬県前橋市	<p>2年雇用促進入れるといわれていたのに9月末と言われた。</p> <p>連絡も何もない。厚労省の指示と言わされた。どういうことか。ここに避難している人たちの温度差が気になる。</p> <p>自分は障がい者だが、札幌市に住民票を移さないとサービスが受けられないことが多く不便を感じている。</p> <p>主人が群馬に残っているので住民票を移せない。</p> <p>福島とそれ以外の対応の差があることが困る。差を無くしてほしい。自主避難者は県にかかわらず同じ対応をしてほしい。</p>
福島県福島市	<p>福島にいたなら6月に健康診断を受ける予定だった。自分の年齢だと自分はがん検診の対象だった。こちらに来たら、実費と言われた。（子宮がん検診）福島で受けられたサービスをこちらでも受けたい。自治体により受けられることは違う。子どもの医療費控除、こちらでは一時支払いをしなくてはいけないので負担が大きい。戻らないと清算できないと言われているが帰ることができない。</p> <p>子供の被ばく。内部被ばくが一番怖いと思い気になっている。北海道がんセンターでの検査を申し込んだ。子供だけ申込みできたが自分はだめだった。子供優先と言われた。鼻血が止まらないなど被ばくを疑う症状がずっと出ている。健康面での援助を手厚くしてほしい。被ばく検査は無料にしてほしい。</p> <p>桜台宿舎が物騒な気がする。1号棟前でおじいさんが排便していたらしい。ぼけた方なのか嫌がらせなのかわからないが怖いと感じる。</p> <p>自主避難の費用。旅費の精算、どうなっているのか。</p>
宮城県仙台市	<p>3月から自主避難中。母子避難のため、主人は仙台の会社で残って働き、家族は4か月もの間離れ離れです。本当につらい。泣かない主人が、別れの寂しさに耐えきれず、空港でぼろぼろと涙をこぼし、帰路の飛行機の中でもずっと泣いていたほど。経済的にも、精神的にも、社会的にも、自主避難は相当な負担がかかります。</p> <p>福島県以外であっても、自主避難して住宅を借りて生活をしていることは、何ら差はありません。同じだけの苦労をしています。保障を受けられるように配慮してほしい。</p> <p>北海道は各所がいろいろな支援をしてくださって、また一般市民道民の方も暖かく迎えてくれるので、本当にうれしく幸せを感じ、感謝の心でいっぱいです。</p> <p>ただ、それは民間のボランティアの方の力がってのこと。もっとこのような団体や活動を経済的に支援してあげてほしい。みなさん募金や善意でやってくれてますが、長期化すると見ると、申し訳なく思う。今後避難者が増えることは必須なので、早いうちに、支援団体への支援、優遇措置などを設定し、支えてほしい。</p> <p>内部被ばくの問題が一番不安に感じる。ここに避難者向けに使いたいので、ガイガーカウンターと食品の放射線量を簡易で測定できる計器を数台用意してほしい。</p> <p>ただでさえ被ばくしてきている身。これから少しでも被ばくを減らすのに、数値がはっきり見えることが一番重要なのでぜひお願いしたい。</p>

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

雇用促進住宅 桜台宿舎について

所在地：北海道札幌市厚別区厚別西 4 条 1 丁目
現在 200 世帯以上の自主避難者を受け入れ中。

<1> 経緯・状況

北海道で自主避難者が住居を無償で借りりうることができるのは、唯一雇用促進住宅だけだった。

（それ以外は、震災で家屋倒壊、津波で家屋が無い、原発避難エリアのみの受け入れという条件）

震災被害、原発避難エリアの人以外でも、どの県からでも受入しますという条件で案内されていた。

3 月 31 日に桜台宿舎を見学。まだ誰も入居者がおらず、透析患者家族の受け入れ要請に向けて急ピッチに住宅の補修や工事、清掃が入っていた。数件の部屋を見せてもらったがかなり傷んでいた。この日案内してもらった時点でも、福島などから避難をされて見学をしていく人が多かったと聞くが、どなたも決めずに申込みは無し。正直、廃墟に一人で住む勇気は誰もない。

その後何度も聞いても、問い合わせばかり来るが入居者は数件。何百世帯も空いているのにとのこと。

ところが、政府がメルトダウンの発表をしたとたん、問い合わせと入居申し込みが殺到したとのこと。わずか 1 か月で過半数の部屋が埋まり、続々と入居されていく。（5 月末ごろから）

6 月 10 日で、福島以外の自主避難者の受け入れ申込みを打ち切ると発表される。厚労省からの指示。かけこみ申込みが増える。合わせて 9 月末までの短期受け入れと発表され、その後は不明との話に。自主避難者で罹災証明書を持っていない福島県以外の人は、急に数か月という短い期間と言われて動揺と憤りを隠せない様子の人が多くいた。小さい子供を抱えている人が多く、また引っ越しや家賃発生での経済的負担はどう考えても難しい。急に追い出されたり家賃を取られるのは無茶すぎる。この建物は 7 月上旬で申し込みの部屋数すべて埋まり、申込みを打ち切り。

6 月は中旬からかなりの世帯が引っ越しをしてきた。オペレーションコドモタチなど団体での避難者も入り、急激に人が増え、ルールが確立していない中、軽微な住民トラブルも起きた。

そんな矢先の 7/7、新聞でも報道された悪質ないたずらが発生。（猫と思われる動物の糞便を 3 号棟上層階 9 世帯のドアノブや廊下に塗りつけられ、ケチャップが床にまかれる）

犯行は日中のようだったが、発覚したのが夜 8 時過ぎだったので、お母さんたちが怖がり大騒ぎになる。警察に通報。被害の深刻さ、悪質さ、避難中の住民へのいやがらせであることは間違いないので、そのことへのショック、不安、恐怖で騒然となる。治安が急激に悪くなりだした。

早急に防犯とコミュニティ機能を兼ね備えた、住民の自治組織と防犯体制を確立することが急務となり、数名の避難者により画策し、北海道担当者・ボランティア団体・支援団体の協力と助言をもらいながら、寝る間も休みも返上して急いで立ち上げようと動き出した。この間、様々なマスコミから取材や報道の打診を受けていたが、治安維持のため報道しないよう強く要請する状態だった。

（数社、勝手に住民に直接訪問して、事件のことを聞き出したりする行動が目立ち、問題になった。お母さんによっては、この事件を知らなかつたのでショックを受ける人不安に思う人も増えた為）

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

ところが、北海道新聞社が、この事件を 7/14 夕刊の大きな記事で報道してしまった。

よりによって、しっかりと住宅名と住所も入っており、一番大問題だったのは「若い母親と幼い子供だけで避難してきた世帯が多い。」と記載され、母子避難が報道されてしまった点に尽きる。

そして、その記事を受けてテレビ局各社が桜台宿舎に押し寄せ、勝手に取材し、映像を取り、報道する体制になってしまった。夕刊だけならまだ影響が少なかったが、テレビで報道されることは非常にまずいため、お母さんたちと支援団体の方で必死にマスコミ各社に懇願し報道しないよう依頼。ところが、テレビ朝日は全国放送で流してしまい、もちろん福島宮城などでも報道されて、驚いた家族や友人から心配や不安の問い合わせが避難者のところに入るほどだった。

（避難に反対や消極的な人を家族に残していた場合、これを理由に避難をやめるように言われたり、これから避難を考えていた人たちにとって、ショックから取りやめるか迷う人も現れる。）

また、ツイッター、2ちゃんねるといったネットでも話題となってしまい、一部では写真つきで、場所を確認してきたという人まで現れ、治安への不安はさらに増大することになってしまった。

現実に、宗教、訪問販売が急増しており、不特定多数の人が出入りしており大変危険です。

早急な対応が必要だったため、関係者の努力により、何とか自治組織とメーリングリストなど防犯協力体制を作ろうというスタートラインまでは住民合意で立つことができました。（7/19）

しかし、まだまだ時間と労力が必要であり、避難者のコミュニティとしては不十分な状態。

こんな状態で、何か一つでもまた事件やトラブルが起きたら・・・。ぞっとなります。

先が見えない、不安におののいている人が集まり、決して良い環境、心理状態とは言えません。

経済的にも困窮している世帯が多いので、自己負担でセキュリティを持つのは無理に等しいです。

<2> 住宅全体に関する要望

- ① 各棟の階段、入り口などに数台の監視カメラを設置してほしい。
- ② 各部屋にインターフォンをつけてほしい。（あけないと来客に対応できない）
- ③ 放置されていた期間があまりに長かったことと、以前の立ち退きの際の粗大ごみ放置自転車などが散乱しており、防犯上も美観の上でも衛生面でも非常に状況が悪い。早急な対応をしてほしい。
自主的に清掃は始めているが、素人に手におえる範疇を超えている状況。
- ④ 現在は警察による 24 時間定期巡回をしてもらっています。今後も続けてほしい。

<3> 入居条件に関する要望

- ① 当初、自主避難者受け入れを広く公募していたにも関わらず、条件を絞り、せっかく避難してきた住民に対して多大な負担を強いることになっている。（経済的、引っ越しなどの労力も含めて）すでに受け入れた人に関しては、避難期間は全員同じとして、福島以外の自主避難者であっても、他の人と同じように対応してもらうことが必須です。また、受け入れ終了後の対応も早いうちに打ち出させていただき、今後の人生の設計を早い段階で考えることができるよう配慮してほしい。
- ② 期間終了後、もし有償であったとしても、正規の家賃ではなく優遇措置を取ってほしい。

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

<4> 自主避難者の権利保護について

- ① 現段階では、政府の指定したエリアの避難者のみが保障対象ですが、現実には汚染地の範囲が広いこともあり、早急な避難が必要な人が多くいると思われます。経済的な援助ももちろんですが、自主避難者が肩身が狭いという現実を十分にご承知いただき、自分と家族の健康を守りたいという、至極当たり前の人間の思いから避難して人たちの権利を守ってほしい。

（自主避難者が避難しやすい環境づくり、世論づくり、民間・行政との協力体制づくり）

※ここに避難してきた人は、周囲との放射能への認識の温度差や意見の相違、偏見などから、誰もが多かれ少なかれ、いわれなき誹謗中傷にさらされてきています。「自主避難＝わがまま避難」と言われます。人によっては敵前逃亡かのごとく避難してくるそうです。（自分だけ助かりたいのか、など）それ以外にも「神經質」「ノイローゼ」「気が違った」「自分勝手」「弱虫」「冷たい(仲間を捨ててという意味)」などなど、数えると切がなく、自主避難者は地元では裏切り者扱いです。それは、田舎なほどその傾向が強いらしく、故郷にはもう戻りたくても戻れない状況です。

自主的な避難や保養を推進する、母子避難だけでも公的に認めて補助するなどの対策を講じてほしいという声が多い。避難したくても逃げられない人の多くは、「人の心・意見」という見えない鎖で縛られて、親戚、親、配偶者、友人などからの同意を得られないために被ばくし続けています。

<5> 自主避難者の生活に関する援助

- ① 避難先でも医療助成を受ける体制にしてほしい。医療助成のシステムが全国統一されていないため、避難先の自治体で同じような助成を受けることができず、一時立てかえているケースが多い。元の都道府県に戻って請求することとなるが、線量が高くて避難してきているエリアの方は戻ること自体が無理なので自己負担が増大している。

住民票を移すことで解決すると言われるが、世帯主の仕事の関係などから移せないケースが多い。柔軟な行政対応が早急に必要と思われる。

- ② 外部被ばく内部被ばくを相当量あると思われる人については、医療機関などで健康を被ばく状況の管理・治療できる体制を整えてほしい。特に子供に関しては急務。このところ毎日のように救急車がこの住宅に来て子供ばかり運ばれている。みな症状は様々だが、免疫の低下などで体力が著しく落ちていることが疑われる。健康が悪化することから治安・環境も悪くなりやすい。

- ③ 母子避難者は 2 通りあり、完全な母子家庭と、地元に父を残しての母子避難。どちらにしても経済的にはかなり厳しく、避難の公的支援がまったくない現状では、子供を預けて働くなどの必要がある。保育所の待機児童が問題のため働きに行けないという声が多い。

母子家庭・母子避難の就労支援をしてほしい。手に職をつけるための支援など。

要望書（雇用促進住宅 札幌厚別桜台宿舎より）

平成 23 年 7 月 19 日ヒアリング

<6> その他

① 自主避難者の多くは、福島県、宮城県、関東圏の母子避難者です。さまざまなケースはありますが、皆さん「自分の子供の健康を、自主的に守りたいため、大事なものを捨てるよう避難した」という方ばかりです。特に、周囲との理解の差から、変り者扱い、裏切り者扱いされて傷ついている人も大変多いです。コミュニティにもう戻れないと感じている人にとって、新しい土地での生活こそが希望そのものです。どうか、自主避難者を呼び戻すようなことを行政がするなど、マイナスな対応をしないで、温かく送り出し、温かく受け入れる地方同士の体制を尊重してほしい。

そのための予算、フレキシブルな行政、人員の確保、民間との連携の強化をお願いします。

② 今後の避難者の増大を鑑み、保養環境の確保が急務です。福島内での保養は無意味です。子どもが一時でも放射線量の低いところに過ごすことの大さを考へ、国内のみならず海外での保養も推進してほしい。国内では特に北海道が有力候補地と思われます。現在桜台宿舎に避難中の方たちのノウハウの活用、各支援団体が動きやすい環境づくりにより、可能かと思います。北海道、または札幌市などの大都市、受け入れを表明している各自治体が負担をすることになりますので、できるだけスムーズで、また利権が生まれてしまわないような工夫の元、たくさんの方の受け入れをしてほしいと思います。

（私たち避難者は、大事な家族や友人の健康も心配です。呼ぶことができる体制がほしいです）

③ 桜台宿舎は大変特殊な環境です。多くの住民が避難者というのは全国的に大変珍しいと思われます。しかしそれでも、原発避難の精神的負担のためか、孤立して引きこもっている世帯も多くみられます。なるべく住民が集えるようなお茶会などを定期開催するなどで対応していく、またお互いに声をかけあうなど、互いに助け合う環境づくりをしていっておりまます。しかし、他の住居への自主避難者は、ケースバイケースではありますが、多くは受け入れ先の地域の1部屋を借りて住むため、近くに同じ境遇の方がおらず、とても寂しく不安で、精神的に参っている人がいるのも事実です。そういう方は情報量が不足しがちであり、また地域に溶け込めないなどがあると、簡単に孤立し、大変不安定な状況になってしまいます。大きな枠組みでの避難者ネットワークがある、もしくは公的なサポートなどにより、安心して暮らすことができる環境作りをしてほしい。

どうぞよろしくお願ひいたします。

以上

雇用促進住宅 桜台宿舎 避難者一同